

[石碑をたずねて②]

1. 名称 「長七谷地貝塚」(案内板)

2. 場所 八戸市大字市川町字長七谷地(陸奥市川駅の北東約2km:桔梗野工業団地内)
3. 内容 **長七谷地貝塚**の説明: <詳しくは裏面の「長七谷地遺跡の人々」をご覧ください。>
4. 由来 昭和56年5月25日、**国史跡に指定**。平成2年3月31日:八戸市教育委員会が案内板作成
案内板の寄贈は「東北建設機械販売株式会社」 (掲示用素材はコンクリート製)
5. 思い 他

この案内板は、陸橋【市川未来橋・桔梗橋】から三菱製紙工場方面に車を走らせると道路の左側に見えて来ますが<すすき>が繁茂しており、気を付けないと通り過ぎてしまいます。↗



↘ 史跡は案内板裏手の小高い丘の上に広がっていますが、一面牧草地のようになっており、国の史跡でありながら、それを示すような建物や道路等は全くありません。↘

↘八戸市には国の史跡が四カ所(是川・根城など)ありますが、これらと比較して、その貧弱さに驚かされます。なぜ整備されないのでしょうか。江戸時代に市川尻引前谷地等の**開拓**ですばらしい業績をあげながら新渡戸伝や蛇口伴蔵よりも評価されていない**藤田又右衛門**のようなものではないでしょうか。また、**県重宝**になっている**市川日記**(天保年間に**佐々木太郎左衛門**が飢饉に備えるために子孫に書き残したもの)のように、多くの方々にその存在がそれほど知られておらず、広報活動が少なかったからなのではないでしょうか。私たちの努力が足りなかったのでしょうか。それとも、市川の住民は現状に不満があってもそれを主張しない方が多いのでしょうか。願わくば当史跡が整備されることを…。(文と写真: 轟木下 木村隆一)

寺社めぐり④ **正一位長者久保稻荷大明神と社主の吉田氏②** 桔梗野7区 吉田幹夫

その2 二代目当主・吉田丑松の代(昭和14年まで) 明治42年12月27日付: 伏見稻荷大社に参拝の折、正一位稻荷大神璽の証・8円の神符料の証・80銭の祈禱料の証が残っており、また、大正6年の正一位の証もあります。ただし、当代当主も正一位を賜っていると考えられますが、書き物は現存しておりません。昭和4年8月4日に神社が再建され、ここには旧暦9月4日付で落成式における内外の寄付者の名前が掲額されております。(当集落は、当時は4軒ほど)

その3 四代目当主、現在の吉田一雄の代 漆塗りの立派な権現様がありましたが、盗難に遭ってしまい、今は普通の木彫りの権現様です。最近は費銭ドロや錠破りが横行し、困った世の中になったものです。再建50年を経て茅葺き屋根の腐食が激しくなりましたので、それをトタン屋根にするとともに、2坪ほど増築し、昭和53年5月5日に落成式を行いました。平成11年3月には四代目当主として初めて伏見稻荷大社を参拝して、15万円の祈禱料を納めました。その折5名ほどの町内会有志も同行しました。

その4 神社の主な行事:神社例祭(5月5日)・神社年越し祭り(12月2日)・神社火祭り(2月)等(終わり)

【追悼】 当会の会員・田中慶広氏が、去る10月13日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。(市川を調べる会)

